

第 6 1 回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和 3 年 7 月 8 日（木）午後 6 時 0 0 分～午後 7 時 2 8 分

場 所 小金井市萌え木ホール A 会議室

出席委員 11 人

委員長 松 田 恵 示 委員

副委員長 金 尾 悠 香 委員

委 員 岡 田 一 美 委員 鴨 下 明 子 委員

橋 田 壤 志 委員 中 村 彰 宏 委員

村 本 萌 委員 森 田 眞 希 委員

南 貴 之 委員 天 野 建 司 委員

加 藤 明 彦 委員

欠席委員 1 人

竹 田 祐美子 委員

---

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課係長 東 條 俊 介

企画政策課主任 野 村 啓 介

企画政策課主事 金 信 沙 樹

---

傍 聴 者 0 人

（午後 6 時 0 0 分開会）

◎松田委員長 ただいまから、第 6 1 回の小金井市市民参加推進会議を開催したいと思います。

本日、竹田委員から御欠席の御連絡をいただいております。また、中村委員と鴨下委員からは、御出席が遅れるとの御連絡をいただいておりますので、御報告申し上げます。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第 2 4 条に、半数をもって成立することになってございますので、現在 1 2 人中 9 人の御出席をいただいておりますので、本推進会議は成立しているということで御報告申し上げたいと思います。

それでは、会議に先立ちまして、配付資料の確認を事務局のほうからお願いいたします。

◎事務局 机の消毒や換気など、感染防止には配慮しておりますが、こういった状況でもありますので、効率的な会議運営に努めたいと思っております。御協力よろしくをお願いいたします。

また、手指消毒、マスクの着用に協力をお願いいたします。

それでは資料につきまして、事前にメールで送付させていただいておりますが、次第が1枚、それから資料が1から7までございます。不足のある方がございましたらお知らせいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。途中で気付かれましたら、手を挙げていただければ対応させていただきます。

それでは、議論に入っていただきます前に、前回会議後に意見・提案シートをいただいておりますので、お取扱いを御協議いただきたいと思っております。資料7を御覧ください。

それでは委員長、お願いいたします。

◎松田委員長 傍聴の方から、資料7にございますような意見・提案シートを頂きました。御趣旨は、すぐに実行できないようなものでも目指すべきものは提言していただきたいとの御意見でございます。これは前回のとき、私のほうから少しそういう発言をさせていただいたところだったんですけれども、やはりあまり実現の可能性を気にし過ぎますと、自由な発想が出にくくなるというようなこともございますので、おっしゃるとおりでございますので、まずはたくさんの御意見をいただきながら、どのような提言にまとめていくかというのは、今後考えてまいりたいと思っておりますけれども、そのような進め方でよろしゅうございますでしょうか。

(「はい」の声あり)

◎松田委員長 ありがとうございます。大変力強い御意見をいただいているということでもあると思っておりますので、ぜひ自由に議論を活発に進めつつ、御意見を生かしながら進めてまいりたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

それでは、次第の1に移りたいと思っております。市民参加条例運用状況等についてでございます。では、事務局から御説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、資料1、令和3年度市民参加条例対象附属機関等設置状況を御覧ください。こちらは、令和3年4月1日現在の附属機関等の状況をまとめたものでございます。先ほど説明しました市民参加条例の運用状況を確認するため、現状を報告するものになります。

附属機関等は休会中の会議体も含めて69機関ございます。4月1日現在、委員になっている方の総数は811人、そのうち男性が505人、女性が268人でありまして、男性が67%、女性が33%となっております。条例上は偏りが無いようとなっておりますが、男性のほうが多いという状況でございます。また公募委員につきましては、条例上、委員のうち原則として30%以上ということになっておりますが、専門的な会議など、公募委員をもともと置かない附属機関もあります。それらを除いた、附属機関を分母とした実績としては35.9%となっております。引き続き、条例の趣旨を満たすように周知を図ってまいります。

続きまして、資料2、令和2年度市民参加状況を御覧いただきたいと思っております。

1のパブリックコメントにつきましては、令和3年度からの計画策定に関するものなど、16件実施しておりますが、市議会におきまして、せっかくの意見を生かすことができていない場合があるのではないかと御指摘をいただいております。今年の3月には企画政策課から、

パブリックコメント終了後の検討期間を確保し、いただいた御意見について適切に検討することについて庁内に周知をしております。引き続き、適切な対応に努めてまいります。

次に、1枚おめくりいただきまして、3のワークショップについてでございます。市では、これまで附属機関等への市民参加を促進するため、公募による市民参加の手法を整備するとともに、無作為抽出の活用など、市民の市政への参加機会を拡充してまいりました。一方、附属機関等への参加は高齢者層が中心であることを受けまして、若者の市政参加に焦点を当て、第5期から第7期にかけて、ワークショップの活用についての提言をいただいております。

ワークショップにつきまして令和元年の実績と比べますと、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施回数自体はやや減っておりますが、市内の中学生を対象としたものや、親子参加型のものであったりと、多様な市民参加に向けて少しずつ拡充できているのかなというふうに思っております。引き続き、参加及び議論のしやすい環境作りに努めてまいります。

その他につきましては参考に御覧いただきたいと思います。

説明は以上でございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。2件御説明いただきましたけれども、ただいまの報告に関しまして、御質問等、あるいは御意見ございませんでしょうか。

◎岡田委員 良いですか。

◎松田委員長 はい。じゃ、岡田委員、お願いします。

◎岡田委員 パブリックコメントの概要が、一部反映したという形で、何人何件という形で書いてあるんですけど、これは一部反映したと書いてあるだけなんですけど、具体的なものというのはどなたでも見られるようになっているんですか。

◎事務局 ホームページにパブリックコメントについてもまとめた資料を掲載させていただいておりますし、それから、それを受けて完成した計画についても掲載させていただいておりますので、どなたでも御覧いただけるようになっております。

◎岡田委員 ありがとうございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、またこの後の次第2でも、議論の過程で御質問いただいたり、あるいは合わせて御意見をいただけたらとも思いますので、この次第1としては、これで次に進めさせていただくということにさせていただければと思います。

それでは、続きまして次第2を行います。事務局のほうから御説明をお願いいたします。

◎事務局 第58回、第59回、第60回と、理想の市民参加について検討をいただいておりますが、令和4年5月頃に提言をいただくスケジュールを進めていきたいというふうに考えております。本日の会議内容を踏まえまして、次回には一旦骨子案として皆様にお示しをし、次回から3回程度で提言内容をまとめていきたいというふうに考えております。

資料3、「理想の市民参加」課題と解決策を御覧いただきたいと思います。今まで御議論いただいた理想の市民参加とその解決策について、前回の会議までで皆さんに出していただきま

した御意見をまとめたものになります。

次に、資料4、今期（第8期）の提言に向けてを御覧いただきたいと思います。こちらにつきましては、今までいただきました御意見を、ア、意見を出しやすい、出したくなる仕組み、イ、市の情報発信について、ウ、サイレント層へのアプローチ、エ、市への誇りや愛着の4つのテーマに大きく分類をさせていただいたものになります。資料3と合わせてこちらの資料4を御覧いただいて、この解決策を入れたいとか、また新たな意見であったり、まとめ方についてなど、様々御意見をいただければと思っております。

次に、資料5につきましては、提言に向けて御議論いただくに当たり、他の自治体等が行っている取組について幾つか参考に出させていただきます。順に説明させていただきたいと思います。

最初に資料5-1を御覧ください。渋谷区の取組が載っているホームページになります。渋谷区では、区民全般を対象に総合的な情報配信を行うとともに、来庁せずに各種申請や施設の予約等ができるよう、LINEで手続きを受け付けており、パブリックコメントの意見提出についてもLINEで行えるとのこと。他にも小平市や埼玉県の和光市などが取り入れているようでございます。

次に、資料5-2を御覧ください。既に市報で御覧いただいている方もいらっしゃるかもしれませんが、令和3年5月より、本市の道路管理課でもLINEの運用を始めております。具体的には、道路の陥没や倒木による通行障害などの異常を発見した場合に、LINEを使って手軽に情報提供していただけるようになりました。いただいた情報を踏まえた市の対応については、適宜市のホームページに公表すると聞いております。

資料5-3を御覧ください。青梅市のホームページを印刷したものになります。市民の方からの御意見に対するフ良いドバックの事例になります。本市でも市民の方からの御意見をいただく仕組みはございますが、御本人に直接回答させていただいており、公表はしておりません。

次に、資料5-4を御覧ください。市の情報発信の事例として、和歌山市が発行していることも市報について紹介させていただきます。子供向けの市報を年4回発行しており、子供向けのイベント情報や作品展コーナーに応募があったイラストなどを分かりやすく掲載しております。

資料5-5を御覧ください。三鷹市では、無作為抽出による市民協議会、まちづくりディスカッションというものを開催しているそうです。無作為抽出によって選ばれた18歳以上の市民の方に参加依頼書を送り、承諾を得た方に参加していただくというものになります。現在本市においても無作為抽出による公募市民の募集を実施しておりますが、なかなか浸透していない現状がございます。

最後に、資料5-6を御覧ください。こちらも本市の取組になりますが、小金井市の最上位計画であります第5次基本構想・前期基本計画の策定に当たり、市内在住の18歳以上39歳未満の対象者30人を無作為抽出にて公募し、ワークショップ形式で話し合いを行うという、1

839会議を開催いたしました。ワークショップの一例として紹介させていただいております。事例については以上でございます。

本日は、資料4などを基に更に御意見をいただき、提言の作成に向けてイメージを膨らませていければというふうに思っております。また本日の資料では、資料4でアからエの4項目にまとめておりますが、特に項目数の制限等はありません。本日の会議内容を踏まえまして事務局で提言の骨子案をまとめ、次回以降の議論につなげてまいりたいと思います。

それでは委員長、よろしくお願いいたします。

◎松田委員長 それでは事務局の説明は以上なんですけれども、ただいまの御説明を引き受けてまして、第8期の提言につきまして、検討事項についてどこに焦点を当てるかというようなところ、あるいはその1つずつの焦点の深掘りと良いますか、そういうところで議論を進めさせていただければと思います。

資料3のほうにこれまで議論を積み重ねてきたものがまとめられておりまして、それを本日、資料4という形で事務局のほうで、まず骨子を御提案してくださっているというところになります。ですので、一応この資料4に基づいて少し検討しながら、もちろん骨子にもう一つ足したほうが良いんじゃないかとか、あるいは合わせたほうが良いんじゃないかというようなこともあるかもしれませんし、更には1つずつの問題の中で、もう少しこういう部分を加えたら良いのではないかとか、そういうこともぜひ御議論いただければと思います。

本日はいろいろ御意見をいただきまして、改めて事務局のほうで再度提言に向けてということで、更に具体的にまとめていくというような、そのプロセスの一つかと思っておりますので、できるだけ自由に御意見いただけたらありがたいかなと思います。

それでは早速ですけれども、上から1つずつというのもあるんですが、意見の出やすいところからということでお願いしてもと思うんですけれども、いかがでしょうか。

じゃ、森田委員、お願いします。

◎森田委員 資料4のエについてなんですけど、前回の会議のときにも意見の中で、そもそも市民参加が本当に必要なのかという意見もありましたよね。委員長が心臓をぐっとされてしまったけれども。痛いところというふうに内容を感想の中でされていましたが、私もそれはそう思ったんです。で、このア、イ、ウ、エを載せる前に、じゃ、何で市民参加ってそんなに重要なところを問いかけてみるのが大事なんじゃないかなと思います。

この資料1を見たときに、この中の委員年代別内訳で、20代は1、2、3、4と数えることができるぐらいの人数で、この中で3名、私は知っているんです。1名はうちの職員だし、それってやばいよねと思うんです。なぜ参加するのって大事なんだよということ、例えば、顔が私がぱっと見たときに分かって、しかも、あっ、まだまだゼロ、この委員のところ、ここに送り込めるぞなんて思ったら、この小金井に住んで仕事をしている自分にとって、都合の良い意見を反映させることだってできるわけですよ。でもそれってすごく偏りが出てしまうし、とてもよくないことだと思うんです。

そういうふうによからぬことを考えている者にとっては、市民参加はそんなにしないでもらったほうが、逆にむしろ良い。これって選挙の投票と同じことで、むしろ大きな権力、大きなことを考えている人にとっては、あまり、しーんと、寝た子を起こさないというような発言が政治家から前あって、問題になりましたけれども、そのほうが。そうってからでは遅いんですよ、20代の皆さん、30代の皆さん、もっと自分たちの意見を反映させないと。

この50代、60代、70代はとても多いですが、3年前のある委員会の中では実際に70代の方から、新しい市役所が建設されたときに、高校生がとても騒がしいから、高齢の人優先の場所になってほしいという発言とかも出たんです。そういうことも起こってきますよ。それでも良いんだったら参加しなくても良いと思います。でもそれがとても偏って嫌だな、住みにくくなるなと思ったら、参加をするという機会が与えられているのだから参加しませんかという呼びかけを、ちょっと生々しい意見になっちゃうんですけど、もうちょっと優しく言い方を考えながら掲載したら良いんじゃないかなと思いました。

◎松田委員長 ありがとうございます。そもそも市民参加に向けた提言なんですけど、市民参加ということはどういうことなのか、なぜ必要なのかというその部分を、やはりまず頭に打ち出すべきなのではないかと、そういう御意見でございますが、いかがでしょうか。皆さん、うんうんというジェスチャーをしてくださる委員が多いんですけども。

◎岡田委員 岡田です。

◎松田委員長 はい。

◎岡田委員 森田委員がおっしゃったとおり、言い方はもっともしかししたら柔らかくして良いのかもしれないんですけど、なぜ必要なのかというのはすごく重要なことで、そこは必ず入れたほうが良いんじゃないかなというのは思います。

そしてその20代の方が少ないという今のお話、脱線したらあれなんですけど、みんな1人でここに来ようと思うと、すごくどうしようかなと必ずちょっと思っちゃうと思うんです。なので市民参加も、まずは手始めじゃないですけど、お友達と来ませんかとか、個ではなくて、ちょっと2人で来ませんかとか、そういう形にしていって来やすいんじゃないか、参加しやすいんじゃないかなとかいうか。たった1人で、よし、これに自分で向かっていってみようというよりも、例えば家族であるとか、何かそういう複数で参加できるものというのを入れたら良いんじゃないかなと思いました。特に20代の方とか、1人でここに来るとするのはすごく難しいことじゃないかなと私は思うので、そう思いました。

◎松田委員長 他はいかがでしょうか。

◎金尾副委員長 お伺いして、積極的な人の意見が通りやすいというのが、市政について何かの意見を持って、それが妥当であると皆さんが判断されたのであれば反映していくって、とても良いことだろうなとは思っています。ただ、良からぬことを目的とされると、それはゆがんでしまうという問題意識だと思うんです。

例えば議員の方とかはチェック体制が投票でありますけれども、パブリックコメントとか、

一方的に言うだけのチャンネルだったら別に問題ないと思うんですけど、こういう委員系のものだと、委員が自分の所属とか属性とかに関係なく、みんなのための意見を言わねばならないのだと自覚するためのチェック体制がないと危険があるかなと思ひまして。困ったことがあったときのチェック体制があるかないかというのは、委員を公僕的な立場として捉えるような考え方ができると、良いサイクルで機能するかなというふうにはちょっと思ひました。委員の構成と役割みたいなのに、ちょっと注意をするというんですか、伝わるか分からないですけど、そういう感想を抱きました。

◎松田委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

恐らく今御議論いただいている部分は、本当にスタートのところで重要なお話だと思ひていて、背景には、1つは市政に対する当事者意識というんでしょうか、自分たちの問題なんだということ、そして非常にいろんな立場の人がいらっしゃるわけですから、皆さんにとっての公共のよいこと、必要なことというのを、どう対話の中で生かしていくのか、その辺りに関して、その仕組みの在り方とか、そもそもそういうところに参加することの意味ということでお話しくださっていて、大変重要な話だなと思ひて伺っていました。

あわせてこういう参加ということを考えてときに、例えば先ほど20代、30代というお話が出ましたけれども、そういう皆さんが参加しやすい在り方というんですか、それを同時にはっきりとこの推進会議ではいろいろ議論をしているところがあって、今回たまたまオンラインでの会議というのがありましたけれども、オンラインの会議でやると、うちのはまだまだ技術的にいろんな問題が生じたりというということはあるんですが、他方で非常に傍聴がしやすいとか、それでいろんな御意見もいただけるというようなメリットもあつたりで、そんなことを考えると、やはり参加しましょうという呼びかけとともに、参加のしやすい在り方というものを併せて考えていくのも、多分委員の皆様方の御意見の中に含有されていることなんだなと思ひて伺っていました。

いずれにしても、この具体的な参加の在り方ということの前に、参加するということはどういうことなのかというあたりに関して、事務局のほうに、少し取りまとめの提案を作っていたかどうかという方向で検討いただくのはどうですか。よろしいでしょうか。

じゃ、その上でいかがでしょうか。特に資料4という形での骨子ですけれども。

◎金尾副委員長 すみません、質問、もう一度よろしいですか。

◎松田委員長 お願いします。

◎金尾副委員長 とても今まで言いたい放題だったところを分かりやすくまとめていただいて大変恐縮に思っております。この提言の題目は、「理想の市民参加」だったと思うんですが、今御説明を受けたところだと、この市民参加の対象として、想定している場面は、例えば委員会とかは特定の課題がもう既にあるタイプだと思うんですけども、この資料4のほうから見ると、市が積極的に課題設定とか市民にお伺いするタイプの課題と、そうではないタイプの市民発信で気付いた、生活の中で気付いた課題をフィードバックする市民からの発信タイプの課

題との、両方が交ざっている気がします。市側から課題設定する場合は情報共有からしないと、そういう問題が発生していることも気付かない市民がいたりするので、情報共有からフィードバックしてもらおうというシステムが必要で、市民側からの課題発信だと、アクセスの良さとか、いろんな御意見伺いのチャンネルをきちんとそろえる必要があるように思います。

多分資料4とかはそっちのほうがメインなのか、どういうふうに皆様お考えなのかなど、個人的には気になっているところです。イとかは多分そうで、サイレント層はもともと何も言わないので「何かありませんか」と聞く感じのアクセスの方法だと思いますし、エとかはその後かな。イは多分情報発信というのは、どっちの課題でも回答、こうなりましたよというのを言っているのかなとか、どういう位置づけでの市民参加、課題とか解決とか、どのレベル、流れの中のどこに位置づけられるのを市民参加と言っているかによって、妥当する場合と妥当しない場合があるんじゃないかなと少し思っております。

◎松田委員長 その辺り、事務局のほうで何かちょっと意識されているようなことが、もし現在の時点でありましたら、コメントいただいてもよろしいですか。

◎事務局 今の時点では、今、金尾委員からあったような、こういう場面でとかというところまでは、特に考えて作ってはおりません。これまでにいろいろいただいている意見を、ここにありすくくりでまとまるのではないかということで作っていますので、これをそういう場面に分けるような考え方にしたほうが整理がつきやすいのかなと思ったんですけども、現時点ではいろんなものが交ざっているというふうにお考えいただきたいと思います。

◎金尾副委員長 ありがとうございます。承知しました。

◎松田委員長 その他いかがでしょうか。恐縮いたしますが、こちら側から御指名させていただきたいんですけども、村本委員、いかがですか。

◎村本委員 気になることを聞いても良いですか。

◎松田委員長 はい。

◎村本委員 資料5-2に「道路の異常等をLINEで教えてください」と書いてあるんですが、このLINEの友達ってどれぐらい良いるんですか。

◎事務局 ちょっと今どれぐらいかというのを確認していないんですけども、まだ始まったばかりと良いますか、そこまで多くないのかなと想像するんですが、ちょっと確認をしてみまして、またお伝えさせていただきたいと思います。

◎村本委員 20代の意見からすると、何かSNSってやっぱり20代って使いやすいというのは思われることが多いかなと思うんですけど、逆に、だからこそすごく使うのと使わないのを、結構はっきり若者って切ると思うんです。

これは使いにくいなと思ったら絶対もう使わないし、アプリとかってすぐ削除できたりもしますし、コメントも削ったりとかもするので、そうなるってやっぱり使いやすくて見てもらえるSNSというのをしっかり考えなきゃいけないと思いますし、もしそのSNSをやって、もう全然登録者も増えなくて、誰も意見をくれなかったときに、そのままあなあになって終わら



せるのか、それともそこからまた何かするのかというのも違うと思うので、やりっ放しじゃなくて、その後の駄目だった場合、次何をするのかということまでしっかりと考えたほうが良いのかなと思いました。

道路の問題も全く知らなかったのでも町を歩いていてたまに気になるところもあるので、わっ、何か壊れているなとか思うときもあるので、やっぱり知るとやりやすかったりもすると思うし、LINEだったらみんなやっていると思うので、活用もすごくしやすいと思うので、その先まで考えてくれると良いなと思いました。

◎松田委員長 今の御意見を伺われて、市のほうから何かコメントってございますか。

◎事務局 そうですね、市のほうはまだまだそういうSNSの使い方とかの面では、追いついていないなというのが実感としてありますので、まずはこういったものに踏み出してはみているんですけども、やっぱりこれからどんどん対応が必要だと思しますので、ちょっと勉強していきたいと思います。

◎松田委員長 何かその部分に市民参加があれば良いなと思うんですけど。

◎村本委員 そうです。なので年代別とかがあると。先ほど岡田委員がおっしゃっていたとおり、1人だとやっぱり私もすごく緊張して来づらかったですし、大人の人が聞いているところで、何か自分の発言は間違っているんじゃないかなとか思って言えないこともあるので、20代だけとか、大学生だけとか、そういうのがあったほうが、同世代なので意見交換もしやすいし、結構自分の意見をしっかりとと言えるんじゃないかなと思います。

◎松田委員長 そうですね。

◎森田委員 こういうのを作るときに聞いたら。

◎松田委員長 そういうプロセスにおいて、作る過程で市民参加があると、おっしゃるとおりで。もう僕らは50代、全然駄目。使うのは使いますけど、もうどうしたら良い、ああしたら良いなんていうのは、ちょっと本当にぜひ教えていただきたいですので、そういうのが何かうまく組み込まれれば良いですね。

◎岡田委員 質問良いですか。

◎松田委員長 どうぞお願いします。

◎岡田委員 このお話の影響なんですけど、このLINEの管理人みたいな方というのは、業務ですぐ即答する方がいると思うんですけど、そういう方はもちろん長けた方がやっていらっしゃると考えて良いんでしょうか。

◎事務局 普通の道路管理課の職員が。

◎岡田委員 ええーっ。

◎事務局 もともと道路が乱れていますよとかいう通報は、電話でだったりメールで受けていたものを、LINEでやりやすくしましたよというものになるので、来たら対応して、直しましたよとか、そういうのを今ホームページで公表しているという状態ではあるんです。普通の職員がやっております。

◎森田委員 ツイッターとかホームページも、一応私も入れているんですけど、やっぱりデザインとか、そのぐらい専門の人は、今経済とかよりデザインを学べと、みんなどの分野でも言われているじゃないですか。どう訴えて、どう見せていくかということ。それは行政にとっても同じですよ。やっぱりつまらないので、そんなにずっと見ているにはつらいんですね。

なので、前に周防大島に、そういう点をちょっと見たくて行ったことがあったときに、やっぱり大阪のほうからそういったデザインやコピーにたけた人を引き抜いて。今地方でもいろいろそういうところもありますけど。行政のやっていることの見せ方がやっぱりすごいな、うまいなとそのとき思ったので。梅原さんはそういうデザイナーの勉強をしていそうな感じ。

◎松田委員長 そういう意味では、この資料4で言うと、意見を出しやすいとか、出したくなる仕組み、あるいは情報発信についてというあたりの中で、SNSをどう使うとか、デザインを含めた具体的なインターフェースというんですか、本当に接する区分というのを、より市民の皆さんに使いやすいものにするためには、これは多分それを市役所に丸投げするというのはやっぱりもう難しい作業になっていて、そういうところへの市民参加の在り方というのを、より具体的に考えることができれば良いですよ。

◎森田委員 そうすると10代とか20代というところの部分が弱いので、助けてもらえませんかという呼びかけをすると、10代の人が、ああ、そういうジャンルは得意だからやりたいですと手を挙げる人もいるのかもしれないですね。

◎松田委員長 でも今、人の間をつなぐツールというのは、そのSNSって大きいですよ。もちろんデメリット、メリットはあると思うんですけども、これをどういうふうに活用していくか。まさに今日活用事例という形で資料が出ていますけど、ここはやっぱり一つ大きなポイントですね。

◎森田委員 あとは、そのイの部分の「分かりやすい表現、文章を心がける」、やっぱりこれはどうしても仕方ないのかなとも思ってしまいうんですけど、行政の文章とかは漢字がとて多くて、ぱっと見で、もう何か真っ黒けの一文だったりするので、それを見たときに訴えてくるものがどうしても弱くなってしまいうというの、じっくりと読む前にぱっと見で、ああもう読みたくないなというふうに思ってしまうことがあります。

◎松田委員長 他はいかがでしょうか。橋田委員、いかがでしょう。

◎橋田委員 橋田です。資料1のこの委員会の数がこんなにあるんだっていうのを知らなくて、こういう委員会が設置されること自体が、何か設置する意図みたいなのは多分あるとは思いますが。

だからもともとこれを設置しようと思ったとき、こういうふうにしてほしいというのがもともとあるから設置されるわけで、ほとんどの人が、自分の意見が、例えばこの委員会の中で求められる意見かどうかは分からないような状況で、もともとその委員会が設置されたときの、こういうことをしてほしいというのがもうちょっと伝われば、ほとんどの人は人に合わせてどうしても意見するので、こういうことを言ってほしいのかなという部分とこういうことを言っ

てほしいという部分が最初に合えば、そこからどんどん派生して行って、新しい意見が出てくるんじゃないかと思うんですけど、いきなり今までにない意見というのは、多分出ないというか、そんな天才みたいな人はあまりいないと思うので、ここではこういうことを言ってほしいみたいなことを初めは言ったほうが、ルールの上に乗れるというか、参加しやすいんじゃないかなとは思っています。

◎松田委員長 そういう意味では確かにこの資料1にありますような機関名というのは、読んですぐにこういうことをやっているんだなというのが分かるかというのと、説明が必要などころがありますね。こういうあたりも資料4で言うと、意見を出しやすいとか、出したくなる仕組みの一つだと。

◎橋田委員 資料2のさっきのこの概要の何人何件の意見提示があり、一部反映したというところは、数字だけの文というか、結構この何件って思ったよりも多いなと自分は思ったんですけど、一部反映したという部分が、反映できない部分があったということは何か理由があって反映できないとか、これは採用するけどこれは採用しないというのもあると思うので、そういうのとかも、自分で調べるなら調べられるんでしょうけど、どうしても無精というか、そういうことまでする時間とかもないのもあるんですけど、もうちょっとまとめられたら良いかなと思います。

◎松田委員長 先程もこの部分は、ホームページ等でより詳しく情報は提供されているということはあったんですけども、確かにおっしゃるとおりで、どういうやり取りがあって、どういう考え方とか基準でそういうものが採用されたり、あるいは以降の検討課題ということにされるのかは、その部分自体を共有できるような仕組みになっていると、なお参加が進むというのは、おっしゃるとおりですよ。

◎岡田委員 岡田です。

◎松田委員長 お願いします。

◎岡田委員 これはパブリックコメントをよくよく見て、人数とかを今見てみて、すこやか保育ビジョンさんなんていうのは、16人で107件の意見提示があるってすごいと思うんです。議題というか、はっきりとした、何について意見をしたいとかというのをやっぱり提示してもらおうほうが出やすいので、私もそうなんですけど、多分質問があったとしても、結局ホームページのどこかに書いていますになっちゃうと思うんです。多分それは探せば必ず出てくると思うんです。きっとちょっとした疑問でも。

でも、今市で知りたいことがあるとしたら、そちらからやっぱり提示してもらおうほうが意見というのは出しやすくて、その提示ももっと分かりやすくて身近な問題であるとかにしていたら、そのターゲットに向けての意見というのはすごく出ると思うんです。全く関係ない年齢層の人に聞いてもしようがないと思うので。

本当にこのすこやか保育ビジョンって、どんなことをしたのかちょっと分からないんですけど、16人で107件の意見というのはすごいと思うので。関心がある部分だと思いますし。

やはり20代なら20代が今関心を持っていることに対する提案、どう思っていますか、意見を下さいという形で示すのが重要なんじゃないかなと思います。ちなみに20代は市に対してどういうことに疑問を持っていらっしゃるんですか。

◎村本委員 市に対してですよ。

◎岡田委員 市というか、国でも。何か疑問とか、困っていらっしゃる事とか、ホームページに書いてあることでも良いんですけど。

◎村本委員 東小金井の北口のロータリーがすごく不便です。車が全然入っていけないところがすごく複雑だと思うし。どうにかしてください。

◎岡田委員 困っているな。

◎村本委員 例えば仕事を辞めたときときとかに、どうしたら良いんだろうみたいな不安とかを、すぐ聞きに行こうと思うけど、でも調べてからのほうが良いのかなとか。市役所って入るのもちょっと気を遣うというか、怖いなと思っちゃうので、列びそうだなとか思うと行きづらかったりもするし、取りあえず聞いてみようと思ったりします。

◎岡田委員 そうなんですね。

◎森田委員 実際は優しい。むしろ優しい。

◎村本委員 冷たい雰囲気を感じちゃう。

◎岡田委員 でも、市役所の雰囲気をどう思いますかでも、私は本当に良いと思うんです、20代の方とか10代の方に対して。すごく率直な意見が出るのではないかなという気もいたします。

◎松田委員長 そういう意味では参加ということを考えるときに、やはりお一人お一人の側から見たときに、参加したくなる内容というのがやっぱり最初は、とても優しくて、そこから参加ということが始まっていくことを、もっと大事にするような仕組みができれば良いですね。おっしゃるとおりだと思うんです。

一方で先ほど金尾委員もおっしゃってましたけれども、そういう形でいろいろ御意見が出てきたときに、まさにそれはスタートのところでの問題提起なんですけど、それを、やっぱりあるものは取り上げたり、あるものは取り下げたりとか、そういう対話を通して練っていくプロセスというのがありますね。その部分への参加というのもやっぱり併せて出てくるのが、多分理想という意味では、次のステップなんだろうね。そんなことが何か仕組みとして出るものなんですかね。多分その辺りの問題提起だったと思うんです。

さっきのSNSみたいな話はちょっとモデルになるかもしれませんね。結局必要だよとか、これが良いよというだけじゃなくて、こうしていこう、ああしていこうと関わっていくということですね。一手に20代を引き受けられて業務は大変だと思うんですけど。

◎森田委員 市役所に入りにくいというのは初めて聞いて。

◎松田委員長 そもそも20代は、他世代、40代とか50代ぐらいに比べて人口が少ないですから。そもそも人口が違いますから、あまりいっぱいはいっぱいになりますと、本当に負担は

大きくなっちゃうというところはあるかと思いますが。

すみません、他はいかがでしょうか。南委員、いかがですか。

◎南委員 私もちよっと質問があったんですけども、1839会議というのがありまして、無作為に抽出した1,000名の方へ、年齢層は18から39という、資料1の一番薄い層の方を対象に募集していると思うんですけども、大体何名ぐらいから応募があったのか。

◎事務局 この会議は、もう応募してきた方全員来ていただいたようなことで、多分ぴったり30人。30名募集して、何人だったかな、二十七、八名応募があったんだと思うんです。で、全員来ていただくというか、お願いしているという感じだったと記憶しております。

◎事務局 1,000人の方にお手紙を出させていただいて、そのうちから30人弱の方に良いお返事をいただいた、出席していただいたということになります。

◎南委員 1,000人という無作為に抽出された方に案内文を送付して30名。

◎事務局 はい。

◎南委員 なのでやはり考えると何か、案内の方法など、SNSを使ってなどちょっと変えてみると、また参加人数も変わってきて、試験的じゃないんですけども、今回郵送で、次はSNSでという感じでやっていくと、またちょっと違う反応、結果が出るんじゃないかなと。良いほうを取っていくと。

◎松田委員長 ありがとうございます。確かにこのアンケートの在り方って難しいですね。おっしゃるとおりだと思います。その意味である種、サイレント層というものをどうキャッチしていくかということにストレートにつながるお話だったと思いますし、方法というのが何かいろいろ工夫できれば良いですね。

他はいかがでしょうか。天野委員、いかがですか。

◎天野委員 まず、皆さん本当に、こんなコロナのときに来ていただきましてありがとうございます。自分は、市民参加推進会議というのが自由に議論ができる場だというふうに思って、皆さんの意見が聞けるから非常に良いかなと思っています。

まずさっき、市民参加についてという話もあったんですけども、これまでも市の姿勢として、市政の主役は市民という考え方があって、市の最上位計画基本構想、この中でも参加と協働を大事にというふうにやってきたつもりです。今、新しい第5次基本構想というものも作って、議会のほうにかけております。前の第4次基本構想を継承して、基本構想を策定する市民参加についても、この市民参加推進会議で以前議論していただきました。

ここに今日も出しているんですけども、若者の参加、それからこれまで参加がないような無作為抽出による参加、そして知らない人でもこうやって意見が出し合えるようなワークショップの活用、こういったもので今まで議論してきていただいて、若い年齢層でこが☆カフェだとか、さっき言っていた18歳から39歳対象の1839会議、それから高校生世代ワークショップということで、アオハルカイギというのもしました。で、第5次基本構想の市民参加があったわけなんですけれども、去年についてはコロナ禍があって、第5次基本構想につ

いて、長期計画審議会の方々に更に議論を行っていただきました。

で、コロナ禍において市政はどうあるべきか、そしてこれからどうなるのか分からないということもあったんですけども、コロナ禍の社会経済状況を踏まえて、長期計画審議会でも第5次基本構想での検討をしてきました。そして長期計画審議会の方からも、市民参加の仕方でSNSだとかという意見があったんです。あとはオンライン。こういったものも行って、新しい生活様式、新しい日常からの審議もありましたが、やはり聞いていて、最後においても、地域におけるコミュニティとか人と人のコミュニティ、それからつながる人の輪が大切であるというようなことも、基本構想の中では話がありました。

それでこの審議会におきましても、今までのことから、そしてこれからの在り方としても、市民参加、行政については今、この時期に議論をしていくというのは非常に良かったなと思っていますし、これからもいろんな状況がありますから、どんどん意見を言っていたらいいというふうに思っています。それで、ウィズコロナから、またポストコロナに向けてどうなるのか、どうあるべきか、これは難しくてもよく分からないんです。なので、今、現時点でも良いと思っているようなことが何でもあれば、気が付けば言っていたらいいと思っていますので、最後まとめるというようなこともあるんですけども、どんどん言っていたらいいと思います。

◎松田委員長 ありがとうございます。

何か御意見とかございますか。じゃ、加藤委員、お願いします。

◎加藤委員 若干市民参加というのから外れてしまうかもしれませんが、以前、職員の採用にかなり長く携わっていたときがありまして、職員採用の申込み者数が本市より数字の桁が1つ違うくらいの自治体がありました。何でだろうというのをいろいろ考えてみて、もう10年以上前の話になります。

職員採用試験で募集要項というのがあるんですが、以前は、大体どういう試験やります、どんな要件でといったものが書いてあるだけだったんですが、それに対して、たまたま私がその担当をしているときに、情報関連の部署に、先ほど森田委員がおっしゃったような、長けた職員がおりまして、自分でホームページを立ち上げたり、市のホームページがちょうどまだ立ち上がった直後ぐらいのときに、その職員に協力いただいて、市としては初めて、若い職員による職場紹介動画を市のホームページの募集要項の横にリンクで貼ったことがあります。当時、年齢層で言うと結構若い職員が多かったので、試行錯誤しながら行ったことがあります。

小金井市に来るとこんな良いことがあるよみたいなことをアピールしてもらい、従来の募集要項という形ではなく、小金井市の職場案内みたいなパンフレットと一緒にその職員に作っていただいて、載せたことがあります。

そうしましたら、今まで募集要項を出しても大体来る質問というのが、この年齢要件についてとか、採用試験の要件そのものであったものが、動画を見て、この職場ってどういう職場ですかとか、若者が活躍できる職場ってどういうことですかとか、そういう質問が来るようになって

て、市民参加とはちょっとずれてしまうかもしれませんが、やはりこちらから積極的に情報発信したときの申し込む方々のリアクションというのが大きく変わって、なおかつ、正確な数字を覚えていないんですけど、たしか通常の2～3倍ぐらいの応募者、採用申込みがありました。先ほども話がありましたが、市側からの情報発信と市民側からの発信もあると思いますが、やはり市側からの発信の工夫一つで、実は今まで来ることのなかった質問が来たり、興味を持ってもらったりということが、以前の話で、今のSNSというレベルとは少し違いますけれども、そのような効果があったことは事実でございます。

また、コロナで去年は行っておりませんが、動画の次に宮地楽器ホール採用説明会をやり始めましたら、やはりいろんな学生さんが来るんです。

そうすると、まず問い合わせこないような学生さんの生の声が聞けて、あっ、なるほど、この人たちはこういうことを思っているんだと初めて分かるようなことがかなりありました。それも、きっかけ作りをこちらがやらないと、そういう方々は当然いらっしゃらないですし、ましてやその方々からのお話を聞く機会もなければ、こちらが聞いても多分そんな話は出てこないで、そういう意味での市側からの情報発信の仕方いかんによって、ある意味市民側から出てくる意見等の掘り出しをできるかどうかというところは、市としても色々試行錯誤しながらやっているのが実状だと思います。

やはり、情報の開示なくして市民の参加はないと思っているので、市としては基本的にはそういう意識を持った上で、どういったことができるかを考えていくのが大事だと思っております。

若干市民参加と外れたかも知れませんが、私の過去の経験を少し御紹介させていただきました。

◎松田委員長 ありがとうございます。お二人から、小金井市の基本的な土俵についてしっかりとお話くださって、本当にお話が噛み合っていく感じがありますね。小金井はすごく市民を大事にされる。本当に思います。どこと比べているかというのはちょっと置いておいて、そういうものをちょっと感じるお話でした。ありがとうございます。

じゃ、中村委員、いかがですか。

◎中村委員 まず、最初にちょっと1つ質問がありまして、市役所のほうでは、今、加藤委員から採用の関係の話がありましたけど、インターンシップってやっておられるんですか。

◎加藤委員 やっています。

◎中村委員 あっ、やっているんですか。

◎加藤委員 昨年と今年はコロナの関係で、受入れはしておりません。

◎中村委員 非常時だから今はやっていない。

◎加藤委員 はい、その通りです。

◎中村委員 それと関連して、市役所へ行くのが怖いとかいうお話が今ありましたけど、そういう意識を持っておられる若い世代の人たちもいまだにいらっしゃると聞いて、ちょっと驚き

を持って受け止めたんですけれども、やっぱりそういう意味で、市役所の広報ということも大事だなと思ったんです。先ほどの加藤委員のお話じゃないですけれども、ITに強い人が入職される、それも一つの方法ですよ。いわゆるITで採用する。

今やっぱり小金井市役所って真面目で優秀な方が私は多いと思うんです。お世辞じゃないですよ。本当の話。真面目な方が多いと思うんです。真摯ですね。それで市役所に良い人が入ってくれば、我々市民としてもやっぱりベスト、ベターなんです。

だからそういう意味でやっぱりいろんな人材、良い人材を採るように、例えばSNSで工夫したりとかあるんでしょうけれども、あとは採る人材も、今こんなコロナ禍ですから医療系の人を採るとか、あるいはITに強い人を採るとか、市役所の職員が満足できるような待遇が良いとか、待遇もいろいろありますね。お金の部分もあるでしょうけど、職場の雰囲気が良いとか、キャリアパスを描けるとか、やっぱりそういった市役所に良い人が入るような仕組みを作ることが、市民参加にもつながるんじゃないかなと思います。

それからあとは、これまでの市民参加推進会議の提言でも、若年層の市民参加について今まで提言してきましたけれども、私は個人的に選挙の立会人をやらせていただいている中で、やっぱり投票率が低いというのがありますよね。今回の都議選でも50%を割っていますよね。それも一つの市民参加だと思うんです。ですから、選挙の投票率を上げるのも大事ですし、あと、立会人をしていて思うのは、若い人が圧倒的に少ないんです。そういう投票所に来る人はやっぱり年代層の高い人です。つえをついてでも必死で来るんです。年配の人はやっぱりそういう迫力ありますね。

今の若い人たちは、ある意味我々のやんちゃな世代と違って、真面目でおとなしくて、従順な人が多い。これはすごく良いことだと思うんですが、こと投票率とか市民参加という。まあ、市民参加っていろいろあると思うんですけれども、投票率という面において低いというのはやっぱり、ちょっと残念だ。全部が全部だとは思わないんですけど。でもその若い人の市民参加にやっぱりターゲットを当てる。ですから広報も含めた中で、若い人の意識をもっと。当事者意識がないとは言わないんですけど、やっぱり当事者意識が大事だと思うんです。当事者意識をもっと持っていただくためにどうしていくかというのが、やっぱり市民参加につながるんじゃないかなと思いました。そんなところです。

◎松田委員長 ありがとうございます。

◎中村委員 それからもう一つだけ。全く別の件なんですけど、この資料1を拝見して思ったことを一つだけ申し上げますと、いろんな審議会があって、定数がありますよね。例えば一つは、国民保護協議会というのが12番にありますけれども、定員、委員が30で、うち公募ゼロ。こういう状態というのはやっぱりよろしくないと思いますので。例えば1人でも2人でも、いろいろ審議会の性質はあれども、ここはやっぱり公募の数をもっと上げていただくような仕組みを行政のほうにお願いできればと、僭越ながら申し上げたいと思います。

もちろんその審議会の性格はあるかもしれないんですけれども、ここの公募枠を増やすこと



によって、これまで市政に見向きもしなかった人が、例えば無作為抽出の公募枠に入ったということで、割とそこから市政への関心が芽生えたというのは、結構委員の方がおっしゃっているケースがありますので、やっぱりこの公募枠を増やしていただくのは一つの狙いかなと。

あとは公募の形態においても、面接とか論文を書いたりだけでなしに、無作為抽出という形で、公募枠の型を破って、いろいろ変化に富ましたほうが良いんじゃないかなという意見です。

◎松田委員長 ありがとうございます。当事者意識のお話とか公募枠のお話は本当に重要なところで、少し書き込む形もやはり検討したほうが良いですね。重要なところかと思えます。ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。鴨下委員、いかがですか。

◎鴨下委員 今回の会議のときに、事前にメールで資料を頂いて、その中で、LINEで道路のところの資料、小金井市の取組であったり、渋谷のパブリックコメントの御意見とかが出て、こういう形態のほうがやはり使いやすいんだろうなというのはすごく思いました。

あと、今回遅刻しますという御連絡をさせていただいたときに、電話で、こういう御時世だから無理なさらなくて良いですよという優しい言葉をかけていただいて、それもすごく優しいというか、ハードルを下げる。参加してよかったなと思えました。

◎松田委員長 ありがとうございます。そういう意味では本当に市民参加のための実践を、もう今まさに市役所の皆さんがやってくださっているというのは、今伺って改めてそうだなと思えました。

でも、やはりSNSのお話というのは、市民の皆さんからしますと、どうしても気になるところになっているというか、これは少し今回の提言でも、やや強めにと良いですか、大きく取り上げててもというような御意見が多いように思います。

その他はいかがでしょう。こういう状況ですので、遅くとも7時半ぐらいに会議は閉められたらなとは思っておりますので、本日もしちょっと言い残したことがあるぞというようなことがございましたら、お願いできればと思いますけれども、いかがでしょうか。お願いします。

◎中村委員 ちょっと私は遅れてきて、こんな意見を申し上げるのは恐縮なんですけれども、資料7の意見・提案シート、これについての取扱いというのはもう議論されたんですか。

◎松田委員長 はい。冒頭のところで、確かにこれはおっしゃる趣旨はよく分かりますので、あまり実行できることだけでブレーキをかけて、自由な発想が出てこないということはないようにしましょう、そういう形で受け止めさせていただけたらというお話をしました。

◎中村委員 分かりました。ありがとうございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。

◎金尾副委員長 すみません、1点だけよろしいですか。

◎松田委員長 はい。お願いします。

◎金尾副委員長 市民参加の必要性のところの一番初めの頃の話に戻るんですけど、そのときからずっと引っかかかっていまして、市民参加といった場合の市民の役割とは、何か「みんなの

ために」というところまでいかなきゃいけないのか、それとも自由闊達にということを確認することに意味があるのか、今考えて葛藤しております。市民参加の市民は、もう言いたいことを言って良いし、自分の思いの丈を伝える場として捉えて良いのか、どういう位置付けの市民として皆さん思っているのかなというのは、おいおい考えていければというふうに思いました。ずっと気になっています。

◎松田委員長 今のは大変大きな課題を少しいただいたところかなと思いますけど、時間はまだございますので、もし何かコメントがございましたらお願いしたいと思いますが、いかがですか。お願いします。

◎森田委員 すみません、私が最初に参加したのって32歳のときで、だから5年ぐらい前と言いたいところなんですけど、20年前なんですけどね。そのときに本当に印象的だったのが、私以外、先生とかお医者さんとか弁護士とか大学の先生で、ぽつんと私だけだった。それこそ本当に。で、なぜその委員に最初出たのかというと、小金井市でNPO法人を立ち上げたのは、まだそのとき5団体ぐらいで、私は4番目ぐらいだったんです。

そのメンバーと福祉NPO法人連絡会というのを立ち上げて、そうしましたら地域福祉課のほうで、その委員会に1人委員を推薦してくださいという依頼が来て、その福祉NPO法人連絡会の中でも私は一番下っ端だったんですが、先輩方が、これからは若い人たちがどんどん意見を言って、小金井を活性化していくことが必要なんだからと背中を押してもらって、地域福祉推進委員会というのに出たんですが、そのときの委員の皆さん方がそういうメンバーだったんです。

当然先生とか弁護士の先生方の意見というのはとても声も大きくて、饒舌であったんですが、ふとしたときに、まだ当時って、市役所も禁煙になったばかりだったんです。信じられないでしょう。そのことについてふとある委員の方が、市役所の人たちが隅っこのほうで背中を丸めてたばこを吸っているのは、何か情けない、また吸えるようにみたいな意見が出たんです。それにびっくりして、やっぱりこういうところに出てきて、きちんと、それは良くないと思いますということを持って大きな声で、人に負けないで、私も気管支が弱い、他にもいっぱい気管支が弱い人とか、そういう声の届かない人のことも想像しながら物を言うっていくということはとても大事なことなんだと、その第1回目のときに思ったんです。なので、だんだん出ているうちに自分も声がでかくなっちゃったんですけど、でもやっぱり大きくても小さくても、いろんな人ももちろん良いとは思いますが。

あとは委員長にもかかっていると思うんですけど、その委員会の中で小さい声の人をうまくすくい上げてもらえるかどうか。ちょっとごめんなさい、何を言っているのか、何かそんな思ったことがきっかけで、それからもしお声をかけていただいたら、はい、やらせてください、あるいは自分が興味を持ったものには積極的に出ていこうというふうに思っています。

◎松田委員長 今、金尾委員からちょっと御提起いただいたことというのは、本当に一番この骨格になるような問題なんですけど、森田委員のお話も非常にそこに含みのあるお話で、今大

変考えさせられています。引き続きこれはちょっと検討しながら進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

◎金尾副委員長 もちろんです。ありがとうございます。

◎松田委員長 そうしましたら、予定していた時間、こういう時期ですので、少し感染予防というのがまだ重要な時期ですので、閉めさせていただければと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、次回の推進会議の開催日についてということで、事務局よりお願いしたいと思えます。

◎事務局 それでは、資料6を御覧いただきたいと思えます。市民参加推進会議の行程表になりますが、次回、10月頃の開催を検討しております。日程につきましては、改めましてメールで調整をさせていただきたいと思えます。

今後の流れといたしましては、こちらに、まず10月に本日の内容を踏まえまして少しまとめたものを再度御提出させていただき、また御意見をいただきたいと思っております。その後、現時点では2月頃、それから4月頃というふうに考えておりますが、この辺で提言の内容を固めていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

◎松田委員長 それでは、次回は10月ということで、また日程調整があるということですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

では、以上をもちまして、本日の会議は終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

(午後7時28分閉会)